

公共牧場における小型ピロプラズマ病対策：

伊那家保 松井宏枝

平成26年、管内の公共牧場で過去10年以上確認されていなかった小型ピロプラズマ病のタイレリア原虫 *Theileria orientalis* (T0) を中間衛生検査時に13頭中2頭で確認。下牧時の検査では、18頭中8頭で確認された。平成27年、年度当初関係者打合せ会議でT0陰性牛のみ入牧させること、T0を確認した牛は臨床症状が無くても下牧させることを申し合わせ。入牧時検査では陰性であったが、中間検査で確認された2頭の陽性牛は下牧、下牧時検査でT0は全頭陰性。平成28年、入牧時検査で確認された1頭の陽性牛は下牧。当該牛を預託した農場の同居牛検査を実施し、39頭中2頭で陽性を確認。当該牛はジアミジン製剤を投与したが、投与後もT0を確認。平成29年は平成27年以降の衛生条件を維持・徹底、入牧前検査以降T0不検出で経過。T0陰性牛の入牧、定期検査によるT0陽性牛の下牧等の対策により、牧場内でT0のまん延を防止することができた。